

令和7年度中央区带状疱疹任意予防接種費用助成のお知らせ

予防接種は、免疫をつくって感染症を予防するのに役立ちます。中央区では、带状疱疹任意予防接種の費用を一部助成しています。希望者が助成金の申請等を実施医療機関の所属する医師会長へ委任することで、接種費用を助成する制度です。本事業による带状疱疹の予防接種は予防接種法に基づいた定期予防接種ではなく、接種の努力義務がない任意予防接種です。このお知らせをご確認いただき、接種するかをご判断ください。

令和7年度から带状疱疹の予防接種が予防接種法に基づく定期予防接種に位置付けられたことに伴い、本事業の対象者が変更となりましたのでご注意ください。

■带状疱疹とは

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。带状疱疹は、50歳を境に発症率が急激に上昇します。

■助成対象ワクチン

带状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、不活化ワクチン（GSK社：シングリックス）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

		ビケン (生ワクチン)	シングリックス (不活化ワクチン)
接種回数		1回	2回
接種方法		皮下注射	筋肉内注射
接種スケジュール		他の生ワクチンとは27日以上の間隔をおいて接種	2カ月以上6カ月以内の間隔をおいて2回接種
ワクチンの効果	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、ビケンは6割程度、シングリックスは9割以上と報告されています。

※使用ワクチンについては医療機関により異なりますのでご注意ください。

■他のワクチンとの同時接種

いずれの带状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチン（インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等）との同時接種が可能です。

■副反応

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。予防接種を受けた後に気になる症状があらわれた場合は、接種した医師またはかかりつけ医へご相談ください。

主な副反応の発現割合	ビケン（生ワクチン）	シングリックス（不活化ワクチン）
70%以上	－	疼痛*
30%以上	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感*、熱感*、 腫脹*、疼痛*、硬結*	頭痛、腫脹*、 悪寒、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感*、倦怠感、その他の疼痛
重大な副反応	アナフィラキシー、 血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎	ショック、アナフィラキシー

*ワクチンを接種した部位の症状

■助成対象者(原則)

予防接種の当日において、次の①から④までのすべての項目に該当している方

- ① 満50歳～64歳の方
- ② 中央区に住民登録がある方
- ③ これまでに公費による带状疱疹ワクチンの接種費用の助成を受けたことがない方
- ④ 带状疱疹定期予防接種の対象者でない方

※令和7年度中に50歳の誕生日を迎える方は誕生日の前日から助成の対象となります。

※以下の経過措置対象者を除き、65歳以上の方は原則带状疱疹定期接種の対象者となるため、そちらをご確認ください。

■助成対象者(経過措置)

原則の助成対象者に加えて、次の①から④までのすべての項目に該当している方も対象者とします。

- ① 令和6年度中に本制度を利用してシングリックスで1回目接種を受けた方
- ② シングリックスでの2回目接種が完了していない方
- ③ 予診票の有効期限内の方（1回目接種から最大6カ月間）
- ④ 令和7年度の带状疱疹定期予防接種の対象者でない方

■助成期間

令和8年3月31日まで

※本事業は令和7年度で終了予定です。接種スケジュールは余裕をもって組んでください。

※シングリックス（不活化ワクチン）で本事業の接種を希望する場合は、接種間隔が原則2カ月以上のため、令和8年1月31日までに1回目接種を完了しないと全2回の接種の完了ができませんのでご注意ください。

※氏名を変更した場合や区内転居をした場合は、再度予診票の交付申請をしてください。

■助成内容

接種するワクチン	助成回数	助成額
ビケン（生ワクチン）	1回	4,000円
シングリックス（不活化ワクチン）	2回	10,000円/回

※自己負担額は医療機関が設定する接種費用から助成額を引いた金額となります。

※予診のみの助成、自己負担で行った予防接種の償還払いはありません。

※助成期間外の接種、中央区外の実施医療機関での接種、指定の予診票を使用しない接種、中央区から転出した後の接種は助成の対象となりません。

■接種場所

同封の「令和7年度 带状疱疹任意予防接種実施医療機関名簿」をご確認のうえ、実施医療機関で接種を受けてください。

※予防接種が受けられる日時は医療機関によって異なりますので、事前に医療機関へご確認ください。

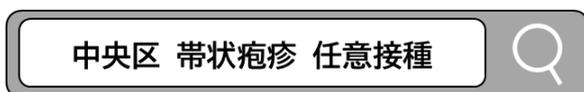
■持ち物

- ① 同封の予診票（あらかじめ必要項目をご記入ください）
- ② マイナンバーカード（健康保険証）

■予防接種と助成の方法

- ① 予防接種を受ける前に、予診票の交付を申請してください。申請方法は保健所・保健センターでの窓口申請または郵送での申請です。
- ② 予診票を受け取った後に実施医療機関の予約をしてください。
- ③ 予診票に必要事項を記入して、実施医療機関で予防接種を受けます。
※予診票の「委任状」欄に、日付の記入・署名をしてください。署名がないと助成が受けられません。
- ④ 医療機関が設定している接種費用から助成額を引いた差額を医療機関でお支払いください。

詳細は区ホームページをご覧ください



〈区ホームページ〉

【問合せ先】 中央区保健所 健康推進課 予防接種担当
中央区明石町 12-1 TEL：03-3541-5930

(1) 予防接種を受ける前の注意事項

このお知らせをよく読み、よく理解した上で接種しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を見合わせてください。

予診票は、接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大事な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種する医師に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

次の方は、予防接種を受けることができません

- ① 明らかに熱のある方（通常 37.5 度を超える場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 本予防接種の接種液の成分に対して、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな方
「アナフィラキシー」とは、ワクチン接種後に起こる激しいアレルギー反応で、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識障害を伴う場合は、「アナフィラキシーショック」と呼ばれます。
- ④（ビケンのみ）妊娠していることが明らかな方
- ⑤（ビケンのみ）明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する方、免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑥ その他、医師に不適切な状態と判断された方

(3) 予防接種を受ける際、担当医師とよく相談しなくてはならない方

次の方は、かかりつけの医師と事前によくご相談ください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気で治療中の方
- ② 風邪などのひきはじめと思われる方
- ③ これまでに予防接種を受けて2日以内に発熱、発疹などアレルギーを思わせる異常がみられた方
- ④ 本予防接種の接種液の成分に対してアレルギーを起こす恐れがある方
- ⑤ 薬を使用して皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
- ⑥ 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ⑦ 免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑧（シングリックスのみ）血小板減少症又は凝固障害を有する方、抗凝固療法を受けている方
- ⑨（ビケンのみ）輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3カ月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6カ月以上おいて接種してください。

(4) 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後、30分間は接種場所で座って安静にするか、医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。アナフィラキシーなどの急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ② 接種後に接種部位の異常や、高熱、けいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ シングリックス（不活化ワクチン）接種後1週間、ビケン（生ワクチン）接種後4週間は副反応が出ていないかよく観察してください。
- ④ ビケン（生ワクチン）の接種後に違う種類の注射生ワクチンを接種する場合には、翌日から起算して27日間以上の間隔をあける必要があります。シングリックス（不活化ワクチン）の接種後に違う種類の不活化ワクチンや生ワクチンを接種する場合には、翌日から接種が可能です。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位はこすらないでください。
- ⑥ 接種当日は激しい運動や大量の飲酒は避けてください。その他はいつも通りの生活で差し支えありません。
- ⑦ 予防接種を受けた後、極めてまれに健康被害（治療を必要とする重い副反応）が生じることがあります。医薬品の副作用による健康被害については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）が実施する医薬品副作用救済制度がありますので直接お問合せください。（フリーダイヤル 0120-149-931）